

熊本市英語教育改善プラン

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

目標1 英語教員の資格取得状況について

(1) 目標指標

求められる英語力(CEFR B2以上)を有する教員の割合を、2022年までに中学校50%以上、高校75%以上にする。

(2) 現状

- ・高校は2018年度を14.7ポイント上回り改善傾向にあるが、中学校とともに全国平均を下回っている。(2018全国 中:36.2%、高:68.2%)
- ・資格取得者が必ずしも英語を用いて授業をしているとは限らない現状があるため、まずは、生徒が理解できる英語を用いたコミュニケーションの場となるような授業を行うことを第一に、その延長線上に教師自身の英語力向上が図られることが重要と捉えている。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・各研修会等において、教師自身の英語力向上の必要性を周知するとともに、英語力に自信のない教師のために、SD研修等で、英語で授業を行う力をつけるフォローをする。

中学校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	35%	35%	35%	35%	40%	50%
達成値	25.9%	32.7%	30.8%			

高校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	50%	50%	55%	65%	65%	70%
達成値	43.8%	50.0%	64.7%			

目標2 生徒の資格取得状況について

(1) 目標指標

求められる英語力(中3生CEFR A1相当、高3生CEFR A2相当)を有する生徒の割合を、2022年までに中3生60%以上、高3生50%以上とする。

(2) 現状

- ・中学校は国の目標指標である50%を達成している。英検IBAを2016年度から実施し、客観的なデータをもとに経年比較できたこと、特に中学卒業時の明確な目標指標に到達しているか全中3生に測定する機会が与えられたことにより、生徒や教師の意識付けが図られた。
- ・高校も英検IBAを2016年度から3年間実施し、上昇が見られた。市立高校が2校しかなく、学校の特色も違うため、目標値に向けて上昇させるための意識付けが課題。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・全国学力学習状況調査並びに熊本市学力調査の結果を分析し、学校訪問等において、中学校卒業時の英語力を目指した授業改善を図るよう指導する。
- ・外部試験等も有効に活用しながら、生徒の英語力が適切に評価できるよう、新学習指導要領が示す目標、その実現に向けた指導、そしてその評価の一体化を図るための研修を実施する。
- ・英検IBAの結果分析を基に、生徒自身が課題を把握し、無料学習ソフトスタディギア for EIKENの有効活用を生徒に促しながら、主体的かつ計画的な家庭学習につなぐ。

中3生	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	50%	55%	55%	55%	60%	60%
達成値	51.3%	51.6%	54.8%			

高3生	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	50%	50%	50%	50%	50%	50%
達成値	45.7%	45.8%	38.3%			

目標3 学習到達目標の整備状況について

(1) 目標指標

- ・2022年度までに小中高ともに、設定率、公表率、設定状況の把握率を100%にする。

(2) 現状

- ・学校全体として設定するのではなく、教師個人に委ねられている傾向があるのが課題。
- ・学習到達目標（Can-Doリスト）は作成されていても、それを生徒と共有し活用する（評価する）視点が不足していたため、学校訪問や研修等で、できそうなことから実施してもらうよう具体例を示し、理解してもらったことで中学校は達成率が上昇した。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・小学校では初めて Can-Do リストを作成することになるため、Can-Do リストを年度初めの小中合同教科主任会にて全中学校が持ち寄り、同一中学校区の小学校とのグループ協議の中で共有してもらうことで小中連携したリストの作成へとつなぐ。
- ・学習到達目標を生徒と共有し、その達成状況を把握することが児童生徒の主体的な学びのために有効であることを認識してもらうために、先進的な事例等を紹介する。

中学校	2017		2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状
設定	100%	64.3%	100%	88.1%	100%	95.2%	100%		100%		100%	
公表	50%	7.1%	50%	4.8%	30%	64.3%	70%		85%		100%	
達成状況把握	100%	28.6%	100%	33.3%	50%	61.9%	70%		85%		100%	

高校	2017		2018		2019		2020		2021		2022	
	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状
設定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		100%		100%	
公表	66.6%	0%	66.6%	0%	33.3%	33.3%	100%		100%		100%	
達成状況把握	100%	100%	100%	100%	100%	33.3%	100%		100%		100%	

目標4 生徒の英語による言語活動時間の割合について

(1) 目標指標

- ・2022年度までに、授業における生徒の英語による言語活動の状況が50%以上である教員の割合を、中学校は100%、高校は60%にする。

(2) 現状

- ・中核教員研修をはじめとする研修をきっかけに、英語による言語活動を中心とした授業づくりの認識が高まっているが、教員の日本語による説明時間が長い授業が依然として多く、学年が上がるにつれその傾向が強い。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・新学習指導要領が目指す方向性、英語科の目標を研修等で繰り返し取り扱い、周知を図るとともに、推進リーダー等による言語活動を中心とした授業を実際に観て学ぶ授業研究会の充実を図る。

中学校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	70%	80%	80%	80%	90%	100%
達成値	60.9%	72.8%	71.0%			

高校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	50%	50%	50%	50%	60%	60%
達成値	21.4%	14.0%	30.2%			

目標5 パフォーマンステストの実施状況について

(1) 目標指標

- ・ALT等を効果的に活用しながら、2022年度までに中学校は学期に2回以上、高校は学期に1回以上、ライティングテスト、スピーキングテストをそれぞれ両方実施する学校を100%にする。

(2) 現状

- ・研修等を通じてパフォーマンス評価の重要性に対する認識が高まり、年々回数が増加している。中学校ではスピーキング・ライティング両方のテストを実施した割合が96.0%に上昇した。
- ・即興性を見るようなスピーキングテスト、知識も内容も問うようなライティングテストになっているか等、評価の妥当性や評価規準等を検証することが課題。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・「熊本市版スピーキングテスト」マニュアルの内容並びに評価規準を、推進リーダーやALTと連携しながら見直し、リニューアルする。
- ・令和元年度研修協力校（飽田東小学校）におけるICTを効果的に活用した授業づくり、他校にしながらタブレットを通じてALT等とやりとりする発信力強化の研究成果を普及する。

【スピーキングテスト】

中学校	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	3回	3回	3回	4回	5回	6回
達成値	0.9回	2.4回	3.8回			

高校	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	3回	3回	3回	3回	3回	3回
達成値	0.2回	0回	1回			

*コミュニケーション英語I

【ライティングテスト】

中学校	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	3回	3回	3回	4回	5回	6回
達成値	0.4回	1.7回	3.0回			

高校	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	3回	3回	3回	3回	3回	3回
達成値	0回	0.3回	2.0回			

*コミュニケーション英語I

目標6 英語担当教員の授業における英語使用状況について

(1) 目標指標

- ・2022年度までに、授業における英語使用率が50%以上である英語担当教員の割合を、中学校は100%、高校は70%にする。

(2) 現状

- ・教員の日本語による説明時間が長い授業が依然として多く、学年が上がるにつれその傾向が強い。

(3) 目標達成に向けた具体的な手立て

- ・中学校、高校ともに、授業は「英語で行うことを基本とする」と新学習指導要領でも明記されており、小学校外国語教育における早期化、教科化を踏まえ、英語教育の高度化を目指し、授業における英語使用の割合を上昇させることを再度研修等で強調する。
- ・授業自体を、生徒が理解できる英語を用いたコミュニケーションで組み立てるよう、授業観を変えるような研修を効果的に実施するとともに、推進リーダー等による言語活動

を中心とした授業を実際に観て学ぶ授業研究会の充実を図る。

中学校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	70%	70%	80%	80%	90%	100%
達成値	60.9%	72.8%	70.6%			

高校教員	2017	2018	2019	2020	2021	2022
目標値	50%	50%	50%	50%	60%	70%
達成値	23.8%	39.5%	30.2%			

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

次の内容を実施し、教員の英語指導力向上を目指す。

【小学校】

① 小学校外国語教科化スタートアップ研修会の開催（動画配信）

対象者：小学校教員

内 容：学習指導要領がめざす外国語教育（評価を含む）並びに新しく使用する教科書に対する理解を深める

② ブラッシュアップ・イングリッシュセミナーの開催（1日）

対象者：小学校外国語主任悉皆（92人）

内 容：学習指導要領がめざす外国語教育（評価を含む）に対する理解を深め、指導力向上につなげる講話と演習

【中学校】

③ 学びわくわく指導案検討研修会の開催（半日）

対象者：中学校英語教員悉皆（各ブロック40人程度ずつ×4ブロック）

内 容：学びわくわく授業研究会（市内一斉授業研）授業者の指導案を参観予定者全員で検討するとともに、新学習指導要領が目指す授業づくりを学ぶ

④ パワーアップ・イングリッシュセミナーの開催（1日）

対象者：中学校英語教員悉皆（150人）

内 容：パフォーマンステストや定期テストのさらなる改善、指導と評価の一体化に向けた講話と演習

⑤ 外部試験結果分析検討会の開催

対象者：中学校英語科主任悉皆（42人）

内 容：英検 IBA の結果分析をもとに、授業改善につながる講話と演習

【小・中学校】

⑥ 教育課程研究協議会（半日ずつ）

対象者：小学校外国語主任、中学校英語教員（※小中各校1人参加）

内 容：新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法、実践発表

⑦ 教科等主任会の開催

対象者：小学校外国語主任、中学校英語科主任合同（※小中各校1人参加）

内 容：英語教育実施状況調査に見る本市の現状を踏まえた授業改善研修、及び英語指導力向上事業に係る共通理解事項について周知、徹底

【高等学校】

⑧ 小中学校の公開授業への積極的な参加

対象者：小学校教員、中・高等学校英語教員

内 容：小中学校で行われる英語の公開授業に参加し、互いの共通理解を深める。特に、中学校での学習内容について理解を深め、今後の指導改善に生かす。

【全校種】

⑨ 模範授業の実施

対象者：小学校・特別支援学校教員、中・高等学校英語教員

内 容：推進リーダーによる公開授業を行い、指導法等の改善に資する。

⑩ SD 研修の実施

対象者：・小学校・特別支援学校教員、中・高等学校英語教員（70人）

・教師塾「きらり」（教職経験4年目～15年目）塾生並びに小中高英語教員

内 容：主体的・対話的で深い学びの授業づくり、英語で授業を行うための英語力向上

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	・専科指導教員連絡協議会①②（4/3・4/14） ・小学校外国語教科化スタートアップ研修会	
5月	・教科等主任会（小中学校）（5/8）	民間機関の指導・助言
6月	・外国語活動授業づくり SD 研修（6/4）（6/25） ・第1回イングリッシュ・デイ実行委員会（6/11） ・推進リーダーによる模範授業（6/18）	
7月	・第2回イングリッシュ・デイ実行委員会（7/6） ・専科指導教員連絡協議会③ ・教育課程研究協議会（7/28） ・パワーアップ・イングリッシュセミナー（7/30）	文科省教科調査官の講話・演習
8月	・第3回イングリッシュ・デイ実行委員会（8/4） ・ブラッシュアップ・イングリッシュセミナー（8/5） ・イングリッシュ・デイ（8/18・19） ・学びわくわく指導案検討研修会（中）	大学教授等の指導・助言 大学教授等の指導・助言
9月	・熊本市版スピーキングテスト見直し検討会① ・外国語科授業づくり SD 研修（9/24）	
10月	・学びわくわく授業研究会（中）（市内一斉授業研）（10/8） ・外国語科授業づくり・英語力向上 SD 研修（10/9） ・英検 IBA（10月中旬～下旬全中学校で実施）	大学教授等の指導・助言
11月	・外国語科公開授業（中学校）SD 研修（11/10） ・熊本市版スピーキングテスト見直し検討②	文科省教科調査官の講話・演習
12月	・R2 英語教育実施状況調査 ・専科指導教員連絡協議会④	
1月	・熊本市版スピーキングテスト見直し検討会③	
2月	・学びわくわく授業研究会（小）（市内一斉授業研）（2/2） ・英検 IBA 結果分析研修会	民間機関の指導・助言
3月	・事業報告書作成、提出 ・熊本市版新スピーキングテストマニュアル配布	
【その他の取組】		

